

一被服製作の知識と過去の経験との関連性一

○布施谷節子 高部啓子（大妻女大短大）

目的：近年、大学生の被服製作技術のレベル低下は著しい。そこで、94年度の指導要領改訂前と後の授業を受けた学生の比較の中で、中・高の家庭科における製作経験と現在の手縫いの技術との関連性を探ることを目的とした。

資料・方法：新課程で学んだ女子短大生 244名を対象として、1997年 4月に、手縫いの技術の習熟度テスト（なみ縫い、本返し縫い、半返し縫い、まつり縫い、ボタンつけ）を行うと同時に、6年前と同じ製作技術に関するペーパーテストと意識調査を行った。解析は単純集計、クロス集計、相関分析によった。

結果：①手縫いのテストでは、なみ縫いの正解率は高いが(98.4%)、四つ穴ボタンつけ(80.9)、足つきボタンつけ(72.5)、本返し縫い(59.0)、まつり縫い(45.9)、半返し縫い(43.9)の順に低下する。

②製作技術に関するペーパーテストでは、新旧の学生の総合得点(121点満点)で旧63.7点、新51.3点と有意差があり、明らかな学力低下が見られた。

③手縫いに関するペーパーテストと手縫いの技術との相関は低く($r=0.199$)、知識と技術の習熟との関連性は低い。

④過去の製作経験と手縫いの技術の関連も見られなかった。